



第2回市町研修（安芸太田町）！

今回のテーマは、「『やり取り』から『書くこと』への指導」です。第6学年のWe Can2 Unit4 「I like my town.」の単元で授業研究を行いました。授業での感想や意見は以下の通りです。

【成果】	・児童にとっての目的意識が明確で、活動への意欲につながった。 ※「ホームシックになったソフィー先生が元気が出るように、自分たちの地域にあったらいいなと思うもの（施設）を考えよう！」 ・「ワードオーダーゲーム」で、語順を意識させることができた。 ※英語の語順は、中学校でもとても重要な内容で、中学校の学習につながるものであった。 ※やりとり⇒ワードオーダーゲーム⇒書くの順は、書くまでの指導の段階を踏んでいる。
【課題】	・シンプルな英語を使っでの指示を多用すること。ジェスチャーを交えながら、英語を使って指示すると児童も理解できるとともに、授業がギュッと締まる。 ・児童にももっと英語を使わせることができるよう、指導や場面の工夫をする。 ・児童の反応やつぶやきを取り上げたり、できたりしたことをもっとほめる。 ・4線の大きさに注意する。幅が狭すぎると、児童が書きにくいだけでなく、正しい位置に書いているのか判断しにくい。

たくさんのご意見をいただきありがとうございました。「書くこと」は、「やりとり」よりも数倍難しいと言われました。今回の授業研究をもとに、さらに「書くこと」の指導の充実を図っていきたいと思います。

【今後に向けて】～指導助言より～

①必然性のある課題設定

- ・児童の話したい！書きたい！と思えるような課題設定をする。
- ・児童が気配りや配慮など相手意識をもって活動したり，考えたり書いたりする必然性を持たせる。

②十分に慣れ親しむから書くことへ

音声で十分に慣れ親しんだ語句を書かせる。

③他教科との関連

外国語活動だけでできないことを他教科等で補う。

④児童の実態を把握し，スモールステップで指導

やりとり（音声）→なぞる→自分で表現

⑤明確なゴール設定

- ・単元の最後に児童に表現させたい会話（発表や文章）を設定し，それに向けて1時間1時間の授業を設計していく。（「単元の逆向き設計」）
- ・Small Talk（会話例）として指導案にも載せておき，今後の授業の財産としていくと良い。

⑥文字指導

- ・鏡文字や形，高さなどに児童が自ら気づくことができる指導の工夫をする。

⑥Classroom English

本当に自分自身が使える表現（シンプルなもの）を身につけていく。

※文部科学省の研修ガイドブックを活用